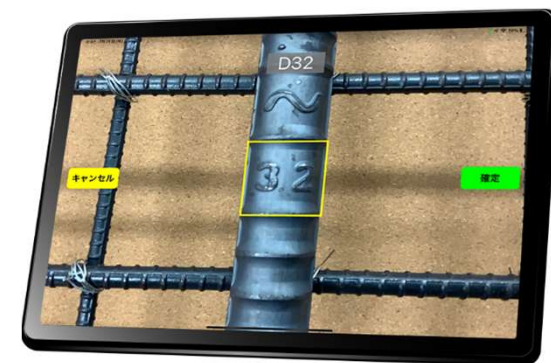


iPad Proを使ったAR配筋検査で 生産性や作業効率が大幅に改善します。

現在、配筋の出来形確認のほとんどは現地で直接計測・確認を行っていることから、事前準備や計測、測定結果の入力作業に多くの人員と時間を必要とする点に課題が指摘されております。これらの問題点を解消し、関連業務の生産性向上を目的に開発されたのが「**配筋検査ARシステムBAIAS※**」です。

※BAIASは、Bar Arrangement Inspection AR Systemの略称です。



特許登録済：特許第7150290号

検査から帳票作成まで、シンプルで一貫したワークフローを実現



配筋検査ARシステム BAIAS

- ・鉄筋出来形の計測(本数・間隔・鉄筋径)
- ・計測値・画像データの保存

計測・画像データを送信

マスターデータを同期



クラウドサーバー

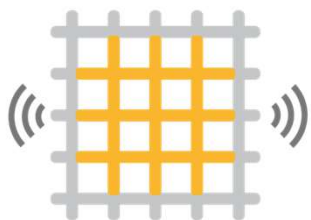
計測・画像データを表示
帳票の自動生成

クラウド管理画面へ
アクセス



軽量のiPad Proのみで鉄筋のピッチや径を計測することが可能です。これにより、**配筋検査の生産性が劇的に向上**します。

特徴



配筋を自動計測

iPad Proのセンサーで収集する点群データから、鉄筋の本数・間隔を自動計測することができます。



鉄筋径も計測可能

D10～D51までの12種類の鉄筋径を、カメラを使って簡単に計測することができます。



帳票をPDFで出力

連携するクラウド管理画面から、設計図と出来形を同時に表示する検査帳票を出力できます。

メリット

#01

海外でも端末が入手可能で軽量

- iPad Pro本体は海外でも**Webから簡単に入手可能**
- 肩掛けできるiPad Proの保護ケースはW268mm x H212mm x D21mmと手ごろなサイズで**約1kgと軽量**

#02

いつでも最新のバージョンを利用可能

- iPad Proのアプリは**いつでも最新バージョンに更新可能 (AppStore配信)**
- 自社開発している**クラウドサーバーのWebシステムも最新機能に随時更新**
- お客様からのご意見やご要望をタイムリーにシステムへ反映！

#03

専用端末ではないため導入しやすい

- iPhoneやiPadを利用しているユーザーにとって普段利用している画面のため**1から専用端末の操作を覚える学習コストが低く、導入しやすい**

従来の鉄筋出来形計測は、3名の作業者が測箇所毎に対象の鉄筋へマーキングし検尺ロッドを使用して行うのが一般的ですが、「配筋検査ARシステムBAIAS」は、iPad Proのみで配筋検査を行うことが可能になるため、**作業者を1名で完結することが可能**です。

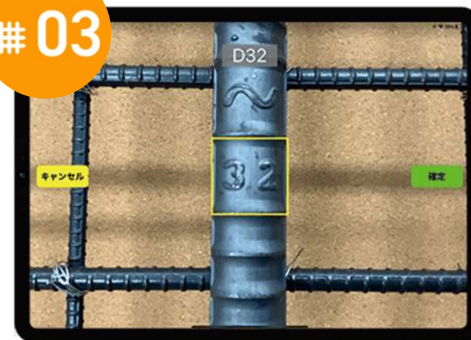
#01



点群から鉄筋の三次元データを測定

配筋間隔の計測はiPad Pro上でアプリを起動して、対象を撮影します。
iPad Proに搭載されたLiDARセンサーによって、予め設定した計測範囲の内側で取得した点群から鉄筋の配置を検出し、鉄筋の間隔を自動で算出します。

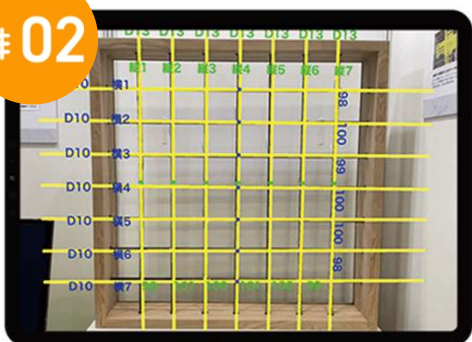
#03



鉄筋径の自動計測が可能

検知した鉄筋に対して、D10～D51までの12種類の鉄筋径計測を行うことが可能です。計測した鉄筋径も画面上にオーバーレイ表示されます。

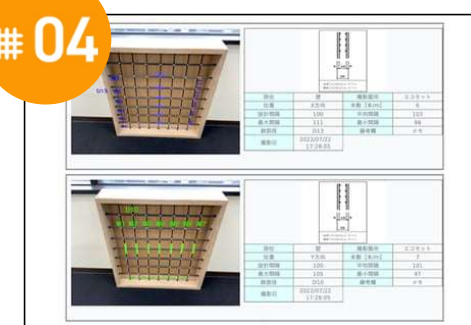
#02



撮影画像にライン・配筋間隔をオーバーレイ

鉄筋の点群データを利用し、鉄筋の本数・間隔を自動計測した結果に基づいて、画面内にラインおよび配筋間隔の数値をオーバーレイ表示します。この時撮影した画像データは、関連情報とともに保存することが可能です。

#04



クラウドとの同期で帳票をPDF出力

保存された鉄筋の計測値と画像データは、アプリ内でいつでも確認することができます。さらにiPad Pro内のデータをクラウドと同期することで、設計図と実際の配筋状況と比較できる帳票をPDFファイルとして出力することが可能です。